

科目区分	専門科目(必修科目)					
授業名	保健		担当講師			
内容 (授業概要)	美容師として必要な皮膚や毛髪及び身体について学習し、将来美容のプロフェッショナルとしてお客さまの頭皮、毛髪、肌の健康管理ができる知識を養う。	学科	美容学科			
		学年クラス	1年			
		設定時期	通年			
		回数	50回			
		時間数	1回=1時限 50分			
		時間数	50時間			
目標	皮膚や身体の仕組みや構成を理解する事で、美容業に従事した際にお客さまに対してプロのアドバイスができるようにする。 また、国家試験合格ができるレベルまで図や表など細かい情報を含め理解をする。					
授業計画	保健	50h	1～6回	第1編 人体の構造及び機能 第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学 1項 人体各部の名称 2項 頭部・顔部・頸部の体表解剖学		
			7～12回	第2章 骨格器系 1項 骨の種類と構造 2項 骨の連結 3項 骨格器系とそのはたらき		
			13～18回	第3章 筋系 1項 筋の種類とその特徴 2項 主な骨格筋とそのはたらき 3項 表情筋と表情運動 4項 理容・美容の作業と筋疲労		
			19～22回	第4章 神経系 1項 神経系の成り立ち 2項 中枢神経とそのはたらき 3項 末梢神経とそのはたらき		
			23～30回	第5章 感覚器系 1項 視覚 2項 聴覚 3項 平衡感覚 4項 味覚 5項 嗅覚 6項 皮膚感覚		
			31～34回	第6章 血液・循環器系 1項 血液のあらまし 2項 血液循環の仕組み 3項 血液の循環経路 4項 心臓と血管のはたらき 5項 リンパ管系の仕組みとはたらき		
			35～37回	第7章 呼吸器系 1項 呼吸器系のあらまし 2項 気道 3項 肺の仕組みとガス交換 4項 呼吸運動		
			38～40回	第8章 消化器系 1項 消化器系のあらまし 2項 消化管のしくみ 3項 消化管のはたらき 4項 消化と物質代謝		
			41～50回	第2編 皮膚科学 第1章 皮膚の構造 1項 皮膚の表面 2項 皮膚の断面 3項 表皮 4項 表皮と真皮の境 5項 真皮 6項 皮下組織 7項 皮膚の部位差		
			授業方法	講義形式だが、一方通行にならないよう学生の積極的な参加を促す。 試験前には模擬試験やチェック試験を行い、理解度を確かめながら定期試験に備える。		
			評価方法	出席率10%・授業態度10%・期末試験80%で総合的成績評価とする。 考査は70点以上/100点で合格。70点未満は再試験を行う。		
			教員紹介	担当教員は、美容師免許取得後サロンに従事し、厚生労働大臣認定日本理容美容教育センター主催の教員研修(実務経験4年以上の者が受講)で教員免許を取得。美容師養成に向けて授業を展開する。		
			教科書	保健(日本理容美容教育センター 発行)		
			用具	授業プリント、人体模型、皮膚断面模型		
			履修上の 注意事項	授業中は講義に集中し、学習内容の理解に努めること。 板書はノートやレジュメプリントを活用してしっかり書き留めること。		

科目区分	専門科目(必修科目)					
授業名	保健		担当講師			
内容 (授業概要)	美容師として必要な皮膚や毛髪及び身体について学習し、将来美容のプロフェッショナルとしてお客さまの頭皮、毛髪、肌の健康管理ができる知識を養う。	学科	美容学科			
		学年クラス	2年			
		設定時期	通年			
		回数	40回			
		時間数	1回=1時限 50分			
時間数	40時間					
目標	皮膚や身体の仕組みや構成を理解させ、美容業に従事した際必要な知識だと認識させ落とし込んでいく。 また、国家試験合格ができるレベルまで図や表など細かい情報を含め理解をする。					
授業計画	保健	40h	1～8回	第2編 膚科学 第2章 皮膚付属器官の構造 1項 毛 2項 脂腺(皮脂腺) 3項 汗腺 4項 爪		
			9～14回	第3章 皮膚の循環器系と神経系 1項 皮膚の血管 2項 皮膚のリンパ管 3項 皮膚の神経		
			15～30回	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 1項 対外保護作用 2項 体温調節作用 3項 知覚作用と皮膚反射 4項 分泌排泄作用 5項 呼吸作用 6項 吸収作用 7項 貯蔵作用 8項 免疫・解毒・排除作用 9項 再生作用 10項 毛のはたらき 11項 爪のはたらき		
			31～34回	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保険 1項 皮膚と全身状態 2項 皮膚と精神 3項 皮膚と栄養 4項 皮膚と嗜好品 5項 皮膚と体内病変 6項 皮膚の水分と脂の状態 7項 皮膚・付属器官のホルモン 8項 皮膚の保護とお手入れ 9項 毛の保護と手入 10項 爪の保護と手入 11項 子供のおしゃれによる皮膚トラブル		
			35～38回	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 1項 皮膚の異常とその種類 2項 皮膚疾患の原因 3項 皮膚疾患の治療法 4項 皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹 5項 口唇の疾患 6項 温熱・寒冷による皮膚障害 7項 角化異常による皮膚疾患 8項 色素異常による皮膚疾患 9項 血管腫(アカアザ) 10項 脂腺母斑 11項 下肢静脈瘤 12項 分泌異常による皮膚疾患 13項 化膿菌による皮膚疾患 14項 ウイルスによる皮膚疾患 15項 真菌による皮膚疾患 16項 衛生害虫による皮膚疾患 17項 感染症の皮膚疾患による予防 18項 毛と爪の疾患 19項 皮膚の腫瘍		
			39～40回	国家試験対策授業(模試)		
			授業方法	講義形式だが、一方通行にならないよう学生の積極的な参加を促す。 試験前には模擬試験やチェック試験を行い、理解度を確かめながら定期試験に備える。		
			評価方法	出席率10%・授業態度10%・期末試験80%で総合的成績評価とする。 考査は70点以上/100点で合格。70点未満は再試験を行う。		
			教員紹介	担当教員は、美容師免許取得後サロンに従事し、厚生労働大臣認定日本理容美容教育センター主催の教員研修(実務経験4年以上の者が受講)で教員免許を取得。美容師養成に向けて授業を展開する。		
			教科書	保健(日本理容美容教育センター 発行)		
			用具	授業プリント、人体模型、皮膚断面模型		
			履修上の注意事項	授業中は講義に集中し、学習内容の理解に努めること。 板書はノートやレジュメプリントを活用してしっかり書き留めること。		